

父の日に牛乳を贈ろう  
市役所で販売支援

6月19日、牛乳の消費拡大を目的とした販売会を市役所で行ないました。

父の日に牛乳を贈ろうキャンペーンは、全国で行なわれていますが菊池地域が発祥で、10年以上活動が続いています。熊本酪農業協同組合合志女性部の松野智子部長は「丹精こめて作った牛乳です」と笑顔で職員に手渡していました。酪農家の皆さんが、生産したおいしい牛乳を飲んでみませんか。



父の日に日頃の感謝を込めて、と話す松野女性部長(中央)

甘くて大きいスイカを贈呈  
JA菊池スイカ部会

6月5日、JA菊池スイカ部会合志支部 松永知大支部長から糖度たっぷりのスイカが、市役所や市内11カ所の保育園・幼稚園に贈られ、あちこちで可愛い歓声が上がりました。

また、同日、同部会西合志支部 久永敏郎支部長から市内の福祉施設、菊香園、くぬぎ園、白鳩園、天使園にも贈呈。施設利用者の皆さんは、大きく立派なスイカに喜ばれていました。



南部保育園の皆さんと記念撮影

令和元年度優良中小企業  
表彰式を開催しました

6月4日、株式会社峯樹木園(峯由知 代表取締役)と熊本工業用品株式会社(池田和徳 代表取締役)の2社を令和元年度の市優良中小企業として表彰しました。

これは、市内中小企業のうち、産業振興や地域経済の活性化に特に寄与している企業を表彰する制度で、今年で6回目になります。

受賞企業からは「市の役に立てるように今後も頑張っていきたい」と決意を述べました。



左から池田代表取締役、荒木市長、峯代表取締役

市企業等連絡協議会が市内医療機関に  
フェイスシールド1,200個を贈呈

5月29日、市企業等連絡協議会(松原美樹会長)が、市内医療機関60施設にフェイスシールドを贈呈しました。これは新型コロナウイルスの感染リスクが高い医療現場で働く関係者への感謝と感染防止に活用してほしいとの思いが込められています。

当日は、ちぢいわ歯科クリニック(千々岩俊之院長)、中山記念病院(信岡幸彦院長)に贈呈されました。※市企業等連絡協議会は市内79企業による協議会です。



ちぢいわ歯科クリニック(写真左)と中山記念病院(写真右)へ

こうし歴史発見  
第69回

問い合わせ先(ワイプル) 生涯学習課 生涯学習班  
☎(248)5555

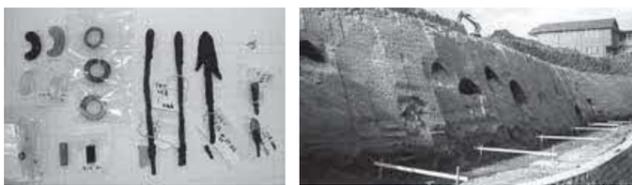
文化財 豊岡宮本横穴群  
所在地 合志市豊岡  
時代 古墳時代

平成15年10月、旧豊岡小学校用地の北側の塩浸川の工事のため、斜面を削り始めたところ、防空壕に似た空洞が発見されました。(写真①)

古墳の可能性があるため工事を一時中断し、県が調査したところ墓の跡であることが分かりました。平成16年3月から発掘調査が行なわれると、全部で12基が確認され、旧合志町では、横穴の墓は初めての発見でした。

人骨が31体以外に、耳環(イヤリング)、貝輪(腕輪)、ガラス玉、勾玉、切子玉、管玉などの装身具、実用的な鉄鍬(矢じり)、鉄鎌、轡(馬の口にはめるもの)、刀子(短い刀)など計284点が発見されました。(写真②)

人骨は、11号基から最多の9体分が出土しました。遺物の貝輪は、



写真②発見された装身具や武器 写真①塩浸川沿の豊岡宮本横穴群



南海産のイモガイ製で、県内における発見例としては少ないことが分かりました。また、県内で発見された古墳時代の鉄製品としては、極めて保存が良いものです。さらには鉄鍬(矢じり)の茎(根本)には木製の矢柄(矢の軸)と繋ぐために巻かれた木の皮が残っている、といった特徴がありました。

人権よもやま話

問い合わせ先 人権啓発教育課  
☎(248)2399



人権擁護委員 山田千代美

人権は私たちが生きていくための土台です。生まれながらに自分らしく生きる権利や幸福を追求する権利を持つています。しかしながら人間関係が希薄になり人権が大事にされていない社会の中で生きていくことは容易なことではありません。

アメリカ合衆国の女性活動家アンジェラ・デイヴィス氏の言葉に「壁が倒れると、それは橋になる」とあります。仕方ないと引き返して逃げののか、力を込めて絶え間なく押し続けて壁を倒し、自由で明るい未来に続く橋を作るのか。あなたはどちらを選びますか。

私の姪は、息子のことを謎の多い不思議な子どもだと感じていたそうです。初めて言葉を話したのは3歳の時、同年、発達障がいがあると診断されました。母親は周りの大人から違いを指摘され、育て方が悪い、愛情不足だ、迷惑だと言われ、冷たい態度をとられました。彼自身も小

学3年生になると毎日のように泣きながら帰宅する日が続きました。言いたいことを言葉にすることが難しい彼には悪いことをしていないのにいじめられることの理由や原因を理解するのは時間が必要でした。人一倍時間をかけて言葉を探し、出した答えは、僕が本望に望んでいるのは、あなたたちがいじめられないことじゃなくて、あなたたちと友だちになることなのだ、ということでした。

その後も毎日泣いて帰ってくる日々が続きましたが、その度に翌朝、笑顔で家を出る毎日が続いていました。いつしか彼の想いが通じたのか、笑顔で帰宅するようになり、母親も安堵しました。中学校、高校でも進学する度にいじめに合っていました。大好きな家族と大好きな音楽を支えにいじめと向き合っていました。現在は音楽専門の大学に進学し、これまでの体験や辛く苦しかった想いを音楽にぶつけています。見た目で分かる違いや生まれ持った人格や考え方などの違いがあるから差別やいじめの対象になるのではなく、違いについて学び、理解し合える機会を持つことが求められています。勇気をもって不当なことには、声を上げていきましょう。